

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りで理念を唱え、利用者との関わりの中で反映されるよう意識付けを行ない、地域の一員として実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に積極的に参加している。回覧板や掲示板を利用し地域の方々へホーム行事の参加を呼び掛けボランティア参加して頂き交流が少しずつ増えてきている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議や地域の方々にホーム行事に参加して頂き、ホームのサービスの意義と認知症の方の理解に繋がるよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの取り組みや問題点、運営状況等を報告し意見交換している。そこでの議事録をスタッフに回覧しサービスの向上に役立てている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者個々の状況を踏まえて、良いサービス提供に繋がるよう積極的に相談し、情報を取り入れ協力関係を築くよう実践している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアについて勉強会を実施し、利用者の行動を制限するような行為をしないようスタッフ間での意識を高め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。家族には面会時に日常の様子を伝え、リスクを含めて対応への理解を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	肉体的虐待防止や言葉による精神的虐待防止について勉強会を実施し、利用者に対しての虐待がないよう話し合い、常に注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が、成年後見人制度について研修会に参加し理解を深め、勉強会において成年後見人制度を取り上げ研修内容を話し合い共有している。諸制度についての相談などは、管理者が対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、看護師、リーダーで面会し、本人・家族に理解し納得して入居していただけるよう分かり易く明確に説明している。改定等に関しては、郵送したり面会時に直接説明をし、家族の理解をもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関フロアに設置しているが意見箱は活用されていない。日頃より利用者の要望を聞き、また面会時に家族から得た意見や要望を話し合い、意見交換を行い運営に生かしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より気付いた点は管理者に相談し話し合い、運営に反映させている。毎月の勉強会に、スタッフが日頃気付いた点や要望などの意見交換を行い、業務改善や環境整備に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者がスタッフの勤務状況などを把握し、代表者へ報告している。スタッフと面談を行い勤務状況や希望などを確認し、技術・能力の向上を目指せるよう職場環境を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフ一人ひとりの力量やケアの実際を把握し、スタッフに合った研修参加を呼び掛け、ケアの向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会の勉強会に参加し、同業者との意見・情報交換の場をつくり、サービスの向上に努めている。グループホーム協会ではふるさと祭りに参加し交流を深めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問時に得た情報をスタッフ間で共有したうえで、本人の不安や心配事、要望を聞き、不安を軽減し信頼関係を築くように努め、安心した生活を送れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前訪問時に、家族から要望を十分に聞き取った上で、施設の対応を分かりやすく説明し、安心していただける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から要望などを聞き取り、必要としているサービスが何か、他のサービスの必要性はないかを見極めて対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、入居者と一緒に掃除、洗濯干しやたたみ、食材の下ごしらえなど出来る事は一緒に行い、生活を共にする者同士の関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は入居者と家族が気軽に過ごせる時間をつくりゆっくりと過ごしていただき、近況報告も行い家族と情報を共有している。月1回お便りを郵送し、活動状況の報告と行事のお知らせをし参加を呼び掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から交流のある方々の来訪があった時は、居室でゆっくりできる環境づくりを心掛けている。年賀状やハガキで交流が続けていけるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の身体状況に差があり全員での関わりは難しいが、体操や歌、風船バレーなど出来るだけ全員で楽しめる環境作りに努めている。食事やお茶の時間は、スタッフが間に入り利用者同士の会話の調整役を務めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、家族にいつでも遠慮なく立ち寄って頂き、家族の不安や困りごとの相談にはいつでも応じるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者の声に耳を傾け、出来るだけ意向に添えるように支援している。意思疎通が困難な利用者は、日常の生活の様子を話し合い本人本位のケアが出来るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から、これまでの生活歴などを聞き取り、今まで利用していたサービス機関等からも情報を得て状況把握に努めている。また日頃の会話や思い出話しからも把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の、日々の変化や状態を詳しく記録し申し送りする事で心身の状態などをスタッフが把握している。定期的なミーティングにてスタッフが情報を共有出来るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人ひとりに担当をおいて、定期的なミーティングにおいてカンファレンスを行ない定期的にモニタリングし問題点の検討を行なっている。本人・家族の意向も反映出来るように介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の変化や状態、スタッフの気づきを個別に記録し、スタッフ間で情報を共有している。月1回はミーティングを行ない、実践したケアの結果や気づきを話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診など基本的には家族が対応するが、必要に応じて受診、散髪、買い物など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や校区行事に積極的に参加し交流することで、豊かな暮らしを楽しむことができるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、主治医を本人・家族に確認している。協力病院による往診と受診体制は整っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態変化等について看護師と連携を取り適切な受診、処置等の対応が速やかにできるようにしている。夜間も状態に応じて電話での指示が受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関や家族と連携を図り、安心して治療が出来るよう情報を提供している。また早期に退院出来るように努め、退院後も安心して生活していただけるよう、病院と情報交換を行い主治医に相談するようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化の指針や看取りに関する指針を説明し同意を得ている。入院時には、家族と話し合いを行ない、家族の意向を主治医と相談し方向性を考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員が救命救急の研修会に参加し急変や事故発生時に備えている。緊急マニュアルをもとに、定期的なミーティングにおいて確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の自主防災訓練は、日中、夜間など様々なパターンを想定し行ない、年2回の総合訓練時は、地域の方々の参加協力を呼び掛けている。非常時に備えて非常食を準備している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いやスタッフ間での会話内容に十分注意し、利用者が不快な思いをしないよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「昼寝がしたい」「テレビが観たい」「どこか出掛けたい」など日頃から気軽に希望を言えたり、「やりたい」「やりたくない」など自由に自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事にかかる時間を本人のペースに合わせたり、園庭に行きたい時に散歩に同行したりと、出来るだけ希望に沿えるよう支援しているが、希望に十分答えられてはいない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人が好む服を着ていただけるよう声かけをし、身だしなみやおしゃれができるよう配慮している。出来ない方に関しては、その人らしいおしゃれが出来るようスタッフで話し合い支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえから、食事の準備、後片付けまでを利用者の状態に応じてお願いしている。利用者とスタッフと一緒に食事をしコミュニケーションを図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態、嗜好、摂取状況に合わせ、食事量と水分量をサービス記録に記入している。必要な利用者には、水分チェック表で水分確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。利用者に合った器具を使用し清潔を保つようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄パターンや行動をを把握し、声掛けやトイレ案内を行なっている。夜間は、ポータブルトイレを使用したり、パット交換するなど一人ひとりの機能に合わせて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、散歩や運動の声掛け、水分摂取量の確認と声掛けを行ない、便秘しないよう取り組んでいる。便秘症の方は排泄チェック表を使用し、排便コントロール出来ています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の曜日は決まっているが、気持ち良く入浴して頂けるよう、声掛けの仕方、お湯の温度など利用者に合わせた支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの、その日の状態に合わせて休息がとれるよう、決まり事を出来る限りなくしている。季節に応じ室温に配慮し気持ち良く休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを常時確認できるようにファイルし、内容をスタッフ全員周知している。薬に変更があった場合は生活日誌に記入しスタッフ間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や楽しみごとに合わせ、裁縫、トランプ、オセロ、野菜の皮むき、花の水やりなどができるよう支援している。嗜好品などは、家族の了解を得て購入している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の外食、年1回の1泊旅行に参加されています。希望があれば、買い物やドライブに出掛けたり、ホーム周辺や近隣を散歩している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族に、出来るだけ現金は所持しないようお願いし協力を頂いている。本人が所持している場合は、希望に応じてお金が使えるようにしており、本人と一緒に残金確認を行なっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>いつでも、家族や大切な方と連絡が取れるようにしている。利用者の希望に応じて電話が出来るように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を取り入れた装飾をしたり、全員写真を掲示し居心地の良い空間づくりを心掛けている。強い日差しや、大きな音に配慮している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールにソファを置いたり、ベランダに縁台を置き、利用者同士が思い思いに過ごせるような居場所作りをしている。目の不自由な方は、テレビの音が良く聴こえるようにテレビの横に椅子を設置している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた日用品を持ち込んで頂き安心して生活して頂いている。家族や知人が面会に来られた時には、本人と一緒に写真を撮る事を心掛け、写した写真を居室に飾るようにしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>本人のできる事を重視し、安全で自立した生活が送れるよう、各居室戸に名札を掲示している。目の不自由な利用者へは、居室までの手摺に誘導用の紐を巻きつけ工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない